



## 基調講演Ⅱ

### 「アジアのセーフコミュニティ活動」

趙 俊必（韓国アジョー大学）

司 会 反町 吉秀（青森県上十三保健所）  
白石 陽子（マチュールライフ研究所）

## 「アジアのセーフコミュニティ活動」

趙 俊必

韓国アジョー大学医学部教授  
アジアセーフコミュニティネットワーク チェアマン(当時)  
セーフコミュニティ認証センター長

白石氏:次に、韓国から、趙 俊必(チョ・ジュンピル)教授に「アジアのセーフコミュニティ活動」についてご講演いただきます。

趙教授は、アジアのセーフコミュニティ活動のリーダーでいらっしゃいます。また、韓国スウォン市にありますアフィリエイトセンターの長としてセーフティプロモーションの活動も、かなり以前からサポートしていただいております。これからは責任をもってサポートしていただく方でございます。それでは、趙教授よろしくお願ひします。

どうもありがとうございます。おはようございます。友人の皆様、同僚の皆様、そしてご参加の皆様、おはようございます。

最初に、このたびは、日本セーフティプロモーション学会の創立ということでこの歴史的な都市であります京都において設立総会を開催されますこと、心からお祝いを申し上げたいと思います。また、学会の運営委員会に対しまして、このたびお招きを受けまして、そして、基調講演者といたしまして、この記念すべき設立総会でお話しさせていただきますこと、お礼を申し上げます。

ここ数日間は、亀岡市で現地視察をしていたわけでありまして、非常に暖かいおもてなしを受けました。また、コミュニティセーフティプロモーションの努力に感銘を受けました。それから、亀岡市の市民の皆様方、協力者、保健医療関係者、京都府の保健医療関係者の方々の方々の今までなした業績に対して、非常に感銘をいたしました。

今朝は、私からは、国際セーフコミュニティネットワーク、そして、アジアセーフコミュニティ・ネットワークについて、簡単にお話ししたいと思います。そして、私たちのプログラムを、どうやって今後さらに改善していくことが必要かということをお話ししたいと思います。これは、私のアジア地域のコミュニティに対する現地視察の経験に基づいて感じていることです。

セーフコミュニティの概念そのものの基盤となっているのは、「セーフコミュニティ声明(マニフェスト)」とい

うことでありまして、すべての人が健康と安全に対して平等な権利を有するというものです。これは1989年スウェーデンで第1回の世界大会のときに採択されたものです。セーフコミュニティプログラム、そして、セミナーの早期の経験から、いくつかの基準が出てきました。これによって国際セーフコミュニティネットワークの会員の認証を得ることができるわけです。

皆さん方はこの指標をよくご存じだと思いますけれども、国際セーフコミュニティの認証を受けるためには6つの指標があります。これらの指標に関しましては、また、後で取り上げたいと思っています。

レイフ・スヴァンストローム先生が既にお話しなさったように、現在118のコミュニティがセーフコミュニティとして認証を受けています。最初に認証を受けたのが、スウェーデンのリードショッピングで1989年です。そして、最新の認証を受けたところが韓国の済州島で、2007年、今年7月です。

WHOコミュニティセーフティプロモーション協働センター、これはカロリンスカ研究所の中にあるわけですが、それを支持していくために、16の提携サポートセンターがあります。アジアの地域では3つありまして、1つは香港、もう1つがバングラデシュ、そして、韓国のスウォンです。京都府というのは、この取り組みからしたら、最も積極的だと聞いております。近い将来京都にアフィリエイト、つまり提携サポートセンターを誘致することができるのではないのでしょうか。すなわち、アジアの近隣諸国において、そしてまた、日本においてセーフコミュニティの運動を促進するために、誘致することができるのではないかと期待しております。

この認証のプロセスを促進するためにカロリンスカ研究所のWHO協働センターは、認証センターというものを設置しています。世界に6つの認証センターがあります。アジアでは、韓国のスウォンにありますアジョー大学に外傷予防コミュニティセーフティプロモーションセンターが設置されています。これがアジアのセンターということになりました。これについては、私たちは非常に誇りに思っています。

このスライドは、アジアのセーフコミュニティネットワークを示しています。18のコミュニティが、既に認証を受けています。韓国のスウォンが、2002年にアジアで最初のセーフコミュニティの認証を受けました。これは、世界では63番目でした。香港には6つのコミュニティ、そして、台湾では4つ、そして中国本土は1つということでありまして、これは山東省済南市のユースパークコミュニティというところです。ベトナムには5つのセーフコミュニティ、これは2006年に認証を受けました。そして、韓国の済州島が一番最近認証を受けました。中国では11のコミュニティが今年中には認証を受ける予定です。ご存じのように、カロリンスカ研究所のWHO協働センターは、認証を受けたコミュニティが、5年ごとに再認証を受けることを推奨しているわけです。再認証を受けるプロセスを通して、各コミュニティを再度活性化し、やる気を起こさせるのです。すなわち、このプログラムを持続可能性をもつものにするということです。スウォン市は、今年の10月4日に、再認証を受ける予定です。

アジアセーフコミュニティ・ネットワークのインターネットのホームページのアドレスは、[www.safeasia.net](http://www.safeasia.net)です。アジアのセーフコミュニティネットワークのニュースレターについても、2か月に1回の発行する予定です。このニュースレターのコーディネーターは、ナム・スー・パク先生でありまして、皆さま方の活動のニュースをほかのコミュニティと共有することを目的としています。

それからまた、医療の専門家、コミュニティ活動の実践家を対象に、アジア地域でのトレーニングコース、また教育プログラムを予定しています。これはWHOの協働センターとともに企画しています。また、年次のネットワークのミーティングを国際会議をアジアの会議でやりたいと思っています。この毎年開かれます年次総会で、日本の方々とお会いしていきたいと思っています。

それから、アジア大会でありますけれども、2年に1回の開催ですが、1回目は2002年に韓国のスウォンで開催されました。2回目の大会は、バングラデシュのダッカ、そして、3番目は台湾の台北市で開催されました。そして、4番目のアジアの大会は、今年11月にタイで開催されます。アジアセーフコミュニティ・ネットワークを代表いたしまして、皆様方の非常に積極的な参加を心待ちにしております。

2009年には中国の北京市で、第5回アジア大会が開催されます。これは中国の労働災害安全衛生協会が主催するものです。第6回アジア大会は、候補地がいま申請待ちの状況です。京都府、そしてベトナムのハノイが2001

年の第6回のアジア大会の強力な候補だと、私は思っています。

さて、それではアジアの多くのコミュニティにおきまして、現地視察を通して私が学んだこと、これらは私たちのプログラムを改善するのに役に立つものでありますけれども、それについてお話ししたいと思います。これは亀岡市にも適応できることだと思います。亀岡市に關しましては、ここ数日にわたって現地視察を行ってきたわけです。それでは、それぞれの指標を見ていきたいと思ひます。

まずセーフコミュニティの第1の指標、より安全な地域作りを目指し、分野や領域の垣根を越えて、協働で取り組む組織があることとなっております。それぞれのコミュニティには、さまざまな部門で、総体的に優れたインフラが存在します。例えば、自治体自身、公衆衛生部門、疾病対策センター、職業安全衛生協会、大学、そして公衆衛生学部、医学部、病院、警察などです。また、消防などもあります。しかし、より部門横断的な協働作業が定期的に行われることによって、外傷予防プログラムにコミュニティの人たちを積極的に巻き込んでいくことが求められます。

2つ目の指標、これはすべての性別、年齢、環境、状況を対象に、長期にわたる継続的なプログラムがあることとされています。

この2つ目の指標に示されるように、我々はすべての年齢層をカバーしなければなりません。子どもたち、あるいは高齢者だけではありません。外傷の統計を見ますと、はっきりわかることがあります。すなわち、思春期から成人期の、すなわち15歳から45歳の人たちも、非常に弱者としてとらえることができるということです。環境に関しては、我々は職場での安全性を忘れてはなりません。また、大規模な商業地域、あるいは農業における安全性も考えなければならぬでしょう。それぞれのコミュニティで、スポーツ、レジャーを行う上での安全性、例えば、おぼれたりすること、自殺、暴力、虐待など意図的な外傷も考えなければいけません。

3つ目の指標は、危険度の高い集団、年齢層や地域などと環境に焦点を当てたプログラム、及び弱者とされる人々を対象にしたプログラムがあることとされています。リスクがより高い弱者というものがコミュニティに存在します。例えば、子どもたち、高齢者、女性が含まれます。また、アルツハイマー病の高齢者、障害者、移民、あるいは外国人も含まれるということです。

そして、4つ目の指標は、外傷の頻度と原因を記録するプログラムがあること。この4つ目の基準というのは、コミュニティ・セーフティプロモーションに対する科学

的なアプローチにとっては重要であり、また、持続可能な開発を考えるにあたっても重要です。自治体、そして公衆衛生部門、医学部、公衆衛生学部、医療従事者、病院などの協働による努力が必要です。そして、単位人口あたりのあたりの外傷データが必要です。そして、各コミュニティが、国際的な基準にしたがって外傷の分類を行い、コミュニティの調査、データの分析を行うことが求められます。さらに、どのような状況で外傷が発生したのかということを知ることによって、リスク因子を減らし、改善をしていくことができます。外傷サーベイランスの分野では、ほとんどのコミュニティが、学会専門家との協働作業が必要です。その意味では、それぞれのコミュニティと、また、日本セーフティプロモーション学会の専門家との間の積極的な協働作業を期待するところであります。

5つ目の指標は、プログラム、取り組みのプロセス、取り組みの結果を評価する基準があること。評価が重要です。さらにセーフコミュニティプログラムを改善していくためのエビデンスベースのアプローチにとっても評価が必要です。各コミュニティは、医療の専門家からも、この面で支援を得ることができるでしょう。

6つ目の指標は、国内、国際的なセーフコミュニティのネットワークへ継続的に参加していくこと。国内、そして国際ネットワークに積極的に参加するということは、経験を共有し、お互いから学び合うために大変重要です。会議に出席するだけでは十分ではありません。皆様には

ぜひ国際会議にも積極的に参加していただき、皆さん自身のプログラムを発表していただきたいと思います。さらに、アジアセーフコミュニティ・ネットワークを代表いたしまして、京都府、亀岡市、そして京都における大学が、できれば国際会議、セミナー、シンポジウム、ワークショップ、あるいは教育、研修コースなどを主催していただきたいと思います。特に、近隣諸国で、あまりセーフコミュニティの概念に通じていない国のために、そのような労をとっていただければと思います。日本セーフティプロモーション学会は、そのような責任、リーダーシップを今後発揮してくださるものと期待しております。

最後になりますが、アジアセーフコミュニティ・ネットワークを代表いたしまして、ぜひ第4回アジア地域大会への皆様の積極的な参加を期待しております。この11月にタイのバンコクで開催を予定しています。これがアジアセーフコミュニティ・ネットワークのホームページです。ネットワークを通じて、さらに情報を得ていただくことができます。ネットワークは、皆さん自身の貢献をも大きく期待して、さらに発展していきたいと思えます。皆様の暖かいおもてなし、歓迎を心より感謝申し上げます。そして、日本のコミュニティが、近いうちに国際セーフコミュニティネットワークの一員となり、世界でも最良のモデルプログラムとなられることを願っております。皆様の学会の成功を、ご健闘を心よりお祈りいたします。ご清聴ありがとうございました。

## Safe Community Movement in Asia

Joon Pil Cho, M.D., Ph.D.  
Chair of the Asian Safe Community Network

Center for Injury Prevention and Community Safety Promotion  
Department of Emergency Medicine  
Ajou University School of Medicine  
Suwon, Korea

[jpcho@ajou.ac.kr](mailto:jpcho@ajou.ac.kr)

- Safe Community Network
- Safe Community Criteria  
– What we need to improve our programs

## Safe Community Manifesto

**"All human beings have  
the equal right to health and safety"**

(The 1st World Conference on Accident and Injury Prevention. Stockholm, Sweden 1989 )

## Indicators for Safe Communities

- An infrastructure based on partnership and collaborations, governed by a cross-sectional group that is responsible for safety promotion in their community;
- Long-term, sustainable programs covering both genders and all ages, environments, and situations;
- Programs that target high-risk groups and environments, and programs that promote safety for vulnerable groups;
- Programs that document the frequency and causes of injuries;
- Evaluation measures to assess their programs, processes and the effects of change;
- Ongoing participation in national and international safe communities networks.

## International Safe Community Network

● Karolinska Institutet ● Certifying Center



## The Affiliate Safe Community Support Centres



## Certifying Center

### Designated Certifying Center

- |   |              |
|---|--------------|
| • Safe Communities Foundation                               | New Zealand  |
| • Center for Peace Action                                   | South Africa |
| • Center for Injury Prevention & Community Safety Promotion | Korea        |
| • Australian Safe Communities Foundation                    | Australia    |
| • Swedish Association for Safe Communities                  | Sweden       |
| • Instituto CISALVA   | Columbia     |

### Under Preparation

- |  |           |
|--|-----------|
| • Canadian Safe Communities Foundation             | Canada    |
| • Hong Kong Occupational Safety and Health Council | Hong Kong |

## Asian Safe Community Network

- 2002: (1) Korea: Suwon
- 2003: (2) China, Hong Kong: Tuen Mun, Kwai Tsing
- 2005: (5) China, Hong Kong: Tai Po  
China, Taiwan: Fongbin, Dongshu, Ailsan, Nohu  
China, Shandong: Youth Park (Jinan)
- 2006: (9) China, Hong Kong: Tsuen Wan, Shan Shui Po, Tung Chung  
Vietnam: Lang Co, Loc Sonh, Da Trach, Dong Tien, Xuan Dinh
- 2007: (1) Korea: Jeju

Expecting in 2007: 12 Communities in China  
Re-designation of Suwon

Expecting in 2008: Japan(1), Korea(2), China(?), Thailand(?), Vietnam(?),

## Asian Safe Community Network

- **Homepage:** [www.safeasia.net](http://www.safeasia.net)
- **Asian SC Network Newsletter**
  - **Coordinator:** Nam Soo Park, [nspark@ajou.ac.kr](mailto:nspark@ajou.ac.kr)
- **Conference, Seminar, or Education courses**
  - **Asian Regional Conference:** every two years
  - **Education courses:** under planning
- **Annual Network Meeting**
  - **During International or Asian Conference**

## Asian Conference on Safe Communities

- **2002(1<sup>st</sup>)** Suwon, Korea
- **2004(2<sup>nd</sup>)** Dhaka, Bangladesh
- **2005(3<sup>rd</sup>)** Taipei, Taiwan
- **2007(4<sup>th</sup>)** Bangkok, Thailand
- **2009(5<sup>th</sup>)** Beijing, China
  
- **2011(6<sup>th</sup>)** Kyoto, Japan  
Hanoi, Vietnam

## Indicators for Safe Communities

- **An infrastructure based on partnership and collaborations, governed by a cross-sectional group that is responsible for safety promotion in their community;**
- **Long-term, sustainable programs covering both genders and all ages, environments, and situations;**
- **Programs that target high-risk groups and environments, and programs that promote safety for vulnerable groups;**
- **Programs that document the frequency and causes of injuries;**
- **Evaluation measures to assess their programs, processes and the effects of change;**
- **Ongoing participation in national and international safe communities networks.**

## Indicators for Safe Communities

### Criteria 1

**An infrastructure based on partnership and collaborations governed by a cross-sectional group that is responsible for safety promotion in their community**

### Criteria 1

**Criteria 1: An infrastructure based on partnership and collaborations, governed by a cross-sectional group that is responsible for safety promotion in their community**

- **Good infrastructures**  
Department of Public Health, Center for Disease Control, Occupational Safety and Health Association, School of Public Health, NGOs
- **Collaborative efforts with cross-sectional groups**  
regular meetings
- **Involvement of community people**  
Creative and active

## Indicators for Safe Communities

### Criteria 2

**Long-term, sustainable programs covering both genders and all ages, environments, and situations**

### Criteria 2

**Criteria 2: Long-term, sustainable programs covering both genders and all ages, environments, and situations;**

- **Age**
  - **Elderly, Children**
  - **Adolescent and Adults (age 15 - 45)**
- **Environment**
  - **Home, Traffic, playground**
  - **Commercial area (large department)**
  - **Work place (agricultural safety)**
- **Situation**
  - **Fire prevention**
  - **Sports & Leisure, Drowning**
  - **Intentional Injuries - Suicide, Violence, Abuse**

## Indicators for Safe Communities

### Criteria 3

**Programs that target high-risk groups and environments, and programs that promote safety for vulnerable groups**

### Criteria 3

**Criteria 3: Programs that target high-risk groups and environments, and programs that promote safety for vulnerable groups**

- **High risk and vulnerable groups**

- Elderly, Children, Handicapped
- Alzheimer disease (Dementia)
- Immigrant
- Foreigners



### Indicators for Safe Communities

#### Criteria 4

**Programs that document the frequency and causes of injuries**

### Criteria 4

**Criteria 4: Programs that document the frequency and causes of injuries**

- **Collaborative efforts with diverse health sectors**

- Department of Public Health
- School of Public Health
- Health professionals from hospital

- Population based data
- International standard
- Including situations injuries occurred

### Indicators for Safe Communities

#### Criteria 5

**Evaluation measures to assess their programs, processes, and the effects of change**

### Criteria 5

**Criteria 5: Evaluation measures to assess their programs, processes and the effects of change**

1. Process evaluation
2. Outcome evaluation

### Indicators for Safe Communities

#### Criteria 6

**Ongoing participation in national and international Safe Communities networks.**

### Criteria 6

**Criteria 6: Ongoing participation in national and international Safe Communities networks.**

1. **National level**  
Annual Conference on Community Safety Promotion  
Training and education courses
2. **Asian regional level**  
Asian Conference on Safe Communities  
Education and training courses - under planning
3. **International level**  
International conference on Safe Communities  
Training and education courses in KI

Looking forward to seeing all of you  
at the 4<sup>th</sup> Asian Regional Conference on Safe Communities  
in Bangkok, Thailand, 2007



Asian Safe Community Network



**Joon Pil Cho, M.D., Ph.D.**  
**Chairman of Asian Safe Community Network**  
**[www.safeasia.net](http://www.safeasia.net)**

**Affiliate Support Center for Safe Communities**  
**Certifying Center for a Safe Community**

**Center for Injury Prevention and Community Safety Promotion**  
**Department of Emergency Medicine**  
**Ajou University School of Medicine**  
**Suwon, Korea**

**[jpcho@ajou.ac.kr](mailto:jpcho@ajou.ac.kr)**